

No.	評価項目	提案記述内容	評価基準	重み	上限配点
<b>I 技術評価点</b>					
1	本学が本システムにより達する目的などに対する理解度				40
(1)	提案にあたっての基本的な考え方	本システムにより本学が達成しようとしている目的、目標を踏まえ、貴社からの提案内容全体に関する実施方針や貴社における過去実績を踏まえた実施体制を含む具体的な提案をお示し下さい。	提案は適切な分量で分かりやすく記載されており、以下の項目については詳細に記述されているか。 ①仕様書に記載の目的などに基づき、本委託の主旨に合致した提案内容となっているか。 ②本学を取り巻く状況や現システムの課題を踏まえた提案内容となっているか。 ③前提事項に則り、かつ、再構築方針に沿った提案内容となっているか。 (過去実績や事例については証明する書類の写しにより確認。)	3	15
(2)	追加提案事項	本件と類似した構築経験などを踏まえ、本学が仕様書中に提示した内容に限らず、追加可能な項目がありましたら、その内容、特徴、本学にとってのメリットをお示しください。	①追加提案があるか(ある場合のみ加点。) ②本学にとって有効な追加提案となっているか。 ③本学と同規模以上の大学における類似の構築経験を踏まえ、実現性が高い提案となっているか。	3	15
(3)	制約事項、特記事項	本件実施にあたり、本学及び関連組織に対する制約事項、特記事項などがありましたらお示しください。	①本学や関連組織の運営にあたっての著しい制約、重大な影響の発生や不利な制約事項はないか。 ②本学や関連組織に対する過度な期待や要望はないか。	2	10
2	機能要件の理解度				40
(1)	機能要件全体	本システムの機能要件を実現するために貴社がどのような方法を採用するかについて具体的にお示しください。 また、各サービスのユーザインターフェースと操作性の観点で考慮すべき点や具体的な対策、工夫できる点などについて、また、システムインターフェースの観点で連携先の他システムへの影響を極小化するための、貴社の考え方を示してください。	①システム機能要件を実現するための具体的な提案がなされているか。留意点や工夫できる点は具体的かつ妥当であり、実現性が高いものか。 ②各サービスのユーザインターフェースはユニバーサルデザイン或いはバリアフリーの観点で考慮されているか。使いやすさ、操作の分かりやすさ、ミスを防ぐための工夫などが考慮された提案となっているか。 ③本学や関連組織が運用保守する他の関連システム連携における本学の調整、作業負担などを考慮した提案となっているか。パッケージシステムを使用する場合にはカスタマイズを極力行わないなど、開発リスクを低減する内容となっているか。	3	15
(2)	機能要件(個別サービス、共通サービス)	現システムの課題に鑑みて、特に重視したいと考えている以下の各サービスについて、特筆すべき具体的な提案、工夫点などについて実現性の観点で貴社の過去実績を踏まえ分かりやすくお示しください。 ・電子申請 ・ストレージ ・クラウドメール(現システムからの移行) ・統合ID管理 ・ネットワーク	①電子申請は承認後申請データに基づく自動処理可能で、運用委託業者などによる手作業が不要な仕組みとなっているか。 ②ストレージは将来的に法人全体で共通化することも視野に入れた拡張性の高い仕組みとなっているか。PPAP廃止のためクラウドメールと連携し、添付ファイルを分離して共有ストレージへ格納する方式が提案されているか。 ③クラウドメールへの移行にあたっては利用者による手作業での移行が発生しない或いは移行を支援することが考慮されているか。 ④統合ID管理、認証については学術認証フェデレーション「学認GakuNin」、Shibboleth、Microsoft Azure ADによる認証の仕組みの導入或いは受注の実績があるか。また、多要素認証が実現されたうえで、将来的に法人全体で共通化することも視野に入れた拡張性の高い仕組みとなっており、そのロードマップが示されているか。 ⑤ネットワークや機器の監視、ログ収集、ログ分析などの共通基盤は保守運用負荷を減らす工夫がされているか。	5	25
3	非機能要件の理解度				15
①	非機能要件(稼働時間、性能、同時アクセス数、信頼性、拡張性、互換性)	本システムが求める非機能要件を実現するために貴社がどのような方法を採用するかについて具体的にお示しください。 また、留意すべき点や具体的な対策、工夫できる点などについて実現性の観点で貴社の実績に照らしてお示しください。	①システム非機能要件を実現するための具体的な提案がなされているか。 ②留意点や工夫ができる点は具体的かつ妥当であり、実現性が高いものか。	2	10
②	情報セキュリティ	本学の情報セキュリティポリシーに基づき、ウィルス対策、不正アクセス防止、個人情報取扱いの観点で考慮すべき点や具体的な対策、工夫できる点などについて、貴社の考え方を示してください。	・情報セキュリティに関する具体的な提案がなされているか。留意点や工夫ができる点は具体的かつ妥当であり、実現性が高いものか。	1	5
4	システムの実現方法				40
(1)	プロジェクト計画について	プロジェクト計画(開発プロセス、開発手法、工程、想定されるスケジュール、体制など)とプロジェクト管理運営方針(リスク管理、課題管理、品質管理、変更管理、コミュニケーション管理など)をお示しください。また、貴社のみならず本学や関連事業者が実施する分があれば、お示しください。	①プロジェクト計画、プロジェクト管理運営の考え方、実施内容や留意点が明確に示されており、内容が妥当か。工程、想定されるスケジュールは本学及び関連事業者が確認、調整、検討などを行うことを考慮し、無理のないものとなっているか。また、確認・検討などを行うタイミングは適切であるか。 ②プロジェクトの体制について、実績があるチームが担当することで構築を実現する提案内容となっているか。	2	10
(2)	システム構成について	要件定義書などの記載内容を踏まえ、実現に最適だと考えるシステム構成(クラウドかオンプレミスかの峻別、オンプレミスの場合にはハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど)について具体的にお示しください。	・クラウドやデータセンターの利用により、オンプレミスが極小化されているか。 ・クラウドは国内設置で、公的証明を取得しているか。 ・構成は現実的かつ妥当で、本学の負担が配慮された内容となっているか。	1	5
(3)	テストについて	テスト方針(各テストの定義、目的、範囲、内容、確認方法、想定スケジュール、本学への報告方法、本学側での実施内容など)についてお示しください。また、それに伴う本学と受託者との役割分担や作業割合について貴社の実績に照らしてお示しください。	・本格稼働時期を踏まえた現実的なテスト方針が提案されているか。 ・必要な検証が網羅される提案となっているか。 ・内容は現実的かつ妥当か。本学側に過大な労力が生じない作業内容となっているか。	1	5

No.	評価項目	提案記述内容	評価基準	重み	上限配点
<b>I 技術評価点</b>					
(4)	移行について	現行システムから本システムへの移行にあたって移行方針（移行方式、範囲、内容、確認方法、制約、想定スケジュール、本格稼働前と本格稼働直後のサポート体制、利用者向け講習会及び本学管理者向け講習会の実施、本学側での実施内容など）について貴社の実績に照らしてお示しください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本格稼働時期を踏まえ、リハーサルを始めとした確実かつ正確な移行の提案がなされているか。</li> <li>・本格稼働前と本格稼働直後のサポート体制は明確になっているか。或いはその検討時期を明確にしているか。</li> <li>・内容は現実的かつ妥当か。本学側に過大な労力が生じない作業内容になっているか。</li> <li>・利用者、管理者目録での提案がなされているか。</li> <li>・講習会の内容は現実的かつ妥当か。本学側に過大な労力が生じない作業内容になっているか。</li> </ul>	1	5
(5)	保守運用について	本格稼働後の保守運用について構築仕様書に記載した「保守運用要件」を実現するために貴社が想定している保守運用方針についてお示しください。また、記載の事項以外に必要なと考える利用者支援や業務を効率化するための対策などがあれば貴社の実績に照らして提案してください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時のみならず、緊急時においても円滑な運用を見据えた提案となっているか。</li> <li>・本学からの照会、調査依頼、利用者支援に対する体制や手順などに関する考え方が示されているか。</li> <li>・特に、年度更新などの現状の課題を解消できる提案となっているか。</li> <li>・内容は現実的かつ妥当か。本学側に過大な労力が生じない作業内容になっているか。</li> <li>・現システムが停止するまでの並行稼働期間において上記の実現性を確認する計画となっているか。</li> </ul>	1	5
(6)	保守運用コストの抑制について	保守運用コストを極力抑えるための工夫がされており、本学が想定する年間の保守運用コストの範囲に収める技術力があることをお示しください。なお、右の計算式により算出された値が負の場合、減点要素と判断します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の方法により決定する。 「評価点＝満点（10点）－（5年間で平均した年間運用経費）／本学が想定する同経費」×満点（10点）」</li> <li>※小数点以下第二位を四捨五入すること。</li> </ul>	2	10
<b>5 組織的対応力</b>					<b>60</b>
(1)	会社としての評価：直近のシステム開発実績	過去3年間に於いて複数の拠点を持つ総合大学での、本件と同様あるいは類似したシステム導入或いは受託した実績があれば導入有無、事例などを簡潔にお示しください。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①過去3年以内に大学への導入事例があるか。</li> <li>②ある場合、複数の拠点を持つ総合大学か。</li> <li>③国立や私立ではなく公立大学か。 （導入或いは受託した実績を証明する書類の写しにより確認。）</li> </ol>	3	15
(2)	会社としての評価：過去実績の規模及び内容	本学の規模（学生1万人、常勤教員6百人）や今回の構築内容に照らして、同規模以上の他大学へ認証やメールといった全学的に資するシステムの導入或いは受託した実績があれば導入有無、構築内容などを簡潔にお示しください。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①同規模（学生数は1万人、常勤教員数は6百人）以上の大学への導入或いは受託実績があるか。 常勤教員数は6百人以上か。</li> <li>②認証やメールといった全学的に資するシステムか。</li> <li>③単純更改や機器更新ではなく、再構築を伴う大規模なシステム開発か。 （導入或いは受託した実績を証明する書類の写しにより確認。）</li> </ol>	3	15
(3)	会社としての評価：業務内容に係る第三者評価など	本件と同様・類似あるいは関連した情報システムの設計・開発・運用・保守業務を始めとした貴社の企業活動に関して第三者機関からの貴社に対する評価・表彰歴や貴社の業務品質の高さを示す実績、業務品質の確保などに資する取組など、貴社としての状況をお示し下さい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①第三者評価機関による評価、表彰歴があるか。</li> <li>②業務品質の高さを示す実績があるか。</li> <li>③業務品質の確保に資する取組を行っているか。</li> </ol>	3	15
(4)	会社としての評価：主要メディアに取り上げられた事例など	本件と同様・類似あるいは関連した情報システムの設計・開発・運用・保守業務を始めとした貴社の企業活動に関して主要メディアによって取り上げられた先進的な取組などの貴社としてアピールポイントがあればお示し下さい。また、重大なセキュリティインシデントやシステム障害、訴訟などの発生有無についてお示し下さい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①先進的な取組として取り上げられた事例があるか。</li> <li>②情報流出などの重大なインシデントの発生がないか。</li> <li>③大規模システム障害や訴訟事例などの発生がないか。</li> </ol>	3	15
<b>6 政策的評価項目</b>					<b>5</b>
(1)	会社としての評価：障害者雇用（障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法関係）	個別法により公共調達の落札者決定過程で考慮することが要請される項目につき、貴社としての取組状況をお示し下さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共職業安定所へ提出した障害者雇用状況報告書等において、実雇用率が法定雇用率を上回っているか（障害者雇用状況報告書又はこれに準ずる書類により確認。）。</li> <li>・障害者優先調達推進法に規定する障害者就労施設等からの物品等の調達実績があるか（契約書の写し又は注文書の写し及び納品書の写しにより確認。）。</li> </ul>	1	5

1	技術点	200
2	価格点（技術点の配点合計の半分）	100
総合評価点		300